

2021年1月3日 (No40)

主日礼拝

司会：山本 潔 奏楽：松村直恵

前奏 奏楽者
讃美歌 85 (二回) 一同
祈り 司会者
聖書 エレミヤ書31章15~17節 (旧約聖書1235頁)
マタイ福音書2章13~23節 (新約聖書363頁) 司会者
讃美歌 275 一同
説教 「貧しく、小さな村へ」 五味 一牧師
讃美歌 280 一同
献金と感謝の祈り 一同
主の祈り 62
頌栄 キリストの平和が (1・5) 一同
祝祷 一同
報告

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

主日礼拝 午後2時 礼拝堂
お茶の会は、コロナウイルス感染拡大防止のためお休みしています。

【今週の集会】

一緒に聖書を読み祈る会

・1月6日(水)はお休みします。

☆☆☆ 新年から浦河教会の主日礼拝、祈禱会は、すべて会場を『カフェ・ぶらぶら』に移します。

【次週の予定】

主日礼拝

・1月10日(日) 午後2時 カフェぶらぶら
・聖書 サムエル記上16章5d~13a節 (旧約聖書453頁)
マタイ福音書3章13~17節 (新約聖書4頁)

説教 「いま、共にいます神」 五味 一牧師
・讃美歌 2、403

◆新会堂・納骨堂について語り合う協議会iv
次週礼拝後

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 秋山里子
④ 佐々木実 ⑤ 吉田公子 ⑥ 伊藤知之 ⑦ 山根耕平 ⑧ 岸澤恵美 ⑨ 高崎晋 ⑩ 山本潔 ⑪ 早坂潔

【集会統計】

集会名	参加者	献金
主日礼拝 (12月27日)	34名 (子2名)	14,214円
祈禱会 (12月30日)	休会	

♪本日の讃美歌♪

♪讃美歌275「闇を行くものは」。この讃美歌はスコットランドの歌です。出だしの句でお分かりのように、旧約聖書イザヤ書9章1~6を歌詞になおしたものです。わたしは長い間、讃美歌は、「わたしの罪を嘆き」、「わたしの悔い改めに涙し」、「わたしの救いを喜ぶ」『わたしの歌』だと思っていました。でも40歳を過ぎて、讃美歌は「神の救いの出来事」を、聖書の言葉にしたがって歌う『神の歌』であることを学びました。ルターは、「牧師は言葉で神の言葉を語る。会衆は讃美歌で神の言葉を歌う」と、それまで聖職者に独占されていた讃美歌を信徒の賛美に戻しました。当時、会衆の多くが農民でしたから、ルターは彼らが歌えるように、自ら讃美歌を作りました

イザヤ書99:1-9は、早くからイエス・キリストの誕生を預言したものと、教会では尊重されてきました。紀元前8世紀のイザヤの言葉が、700年後のイエスの生涯を指し示しているということは、本当に不思議なことです。新約聖書の著者が、旧約聖書の記事に合わせ解釈したのだという方もいます。そうかもしれません。それにしても、旧約聖書とイエスの生涯との間の関係は、まことに不思議です。

#讃美歌讃美歌280「馬槽のなかに」。作詞は日本の讃美歌界の第一人者由木康(1896-1985)。作曲は仙台出身の阿部正義(1891-1974)。

頌栄 キリストの平和が

- 1. キリストのへいわが わたしたちのころのすみずみにまで ゆきわたりますように
5. キリストのゆるしが わたしたちのころのすみずみにまで ゆきわたりますように

東方の学者たちの礼拝から

マタイ 2:1-12

教会の暦では、イエス誕生の祝い＝クリスマス直後の主日は、伝統的に東方の博士たちの幼子イエス礼拝の記事が読まれます。東方からの旅人たちは、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか」と、エルサレムの人々に尋ねました。ここには、誕生した「幼子は何者か」、「幼子は誰か？」がつけられています。

祭司长、律法学者たちは言いました。それは「ベツレヘム」です。ベツレヘムは、古くから地理的にも歴史的にも重要性を持たない、小さな寒村です（ミカ 5:2）。にもかかわらず、これがイエス誕生の地とされたのは、ベツレヘムがダビデとその一族の出生地（サムエル上 16）であり、したがってダビデの子としてのメシアも、そこからやってくるという信仰が、ユダヤの人々の中に生まれていたからです（ミカ 5:1-3）。イエスはベツレヘムで生まれることで「**ダビデの子、メシア**である」という氏素性を明らかにします。

第二は、東方の博士たちです。ユダヤの東方とは、アラビア、ペルシャ地方です。博士は占星術にたけたゾロアスター教の祭司でしょう。彼らは天文学、薬学、占星術、魔術などに優れた博学の学者でした。古代世界では、ギリシャの哲学者、エジプトの神官と並ぶスーパー・インテリです。後に世俗的な魔術使いと同じように見られましたが、それは間違いです。彼らは幼子イエスの前にひれ伏して拝礼し、貢物を献上しました。マタイ福音書では、ベツレヘムで生まれた幼子イエスを最初に祝い、礼拝したのは、ユダヤ人ではなく**異邦人**でした。

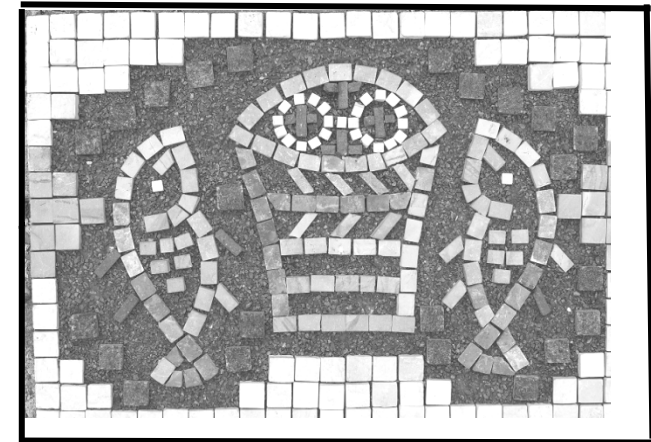
第三に、これはユダヤ人にとって**想定外の出来事**だったでしょう。なぜなら、ユダヤ人は、地上にいるすべての民の中から選びをうけて「神の民＝イスラエル」とされた、神の「聖なる民」「宝の民」だからです（申命記 7:6）。彼らは、同胞であるユダヤ人以外の人々と交流することはありませんでした。路上で行き交っても挨拶はしないし、言葉を交わすこともありません。ましてや、食事を共にすることなど考えられません。こうした背景を知ると、福音書が伝えるイエスの行動が、いかにユダヤの指導者たちにとって想定外だったかが想像できます。

第四に、幼子イエスは、ユダヤ人の王であるだけでなく、異邦人の王でもあることを意味します。神の国の実現をつげ知らせるイエスは、地にあるすべての人を神の国へまねく、**世界の主（王）である**との信仰の告白です。ここで、聖書はあなたに尋ねます。「あなたは幼子イエスを何者というか」と。

日本キリスト教団浦河教会

週報

No.40 2021年1月3日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043